

「熱測定」投稿規定

1. 投稿資格

投稿原稿の著者（連名の場合は1名以上）は日本熱測定学会会員であることを原則とする。ただし、編集委員会で認めた場合はこの限りではない。

2. 投稿原稿

2.1 投稿原稿は論文、ノート、総説とし、いずれも本誌に掲載される以前に他の出版物に発表されていないもので和文もしくは英文に限る。

2.2 和文の投稿原稿は本会所定の横書き原稿用紙^{*}を使用し、当用漢字および新かなづかいを用いて書く。英文の投稿原稿は市販の白地厚手のタイプ用紙（A4判、または国際判）に2段送り、1頁26行でタイプする。

2.3 和文、英文ともに原稿の1枚目に題名、著者名、研究の行われた機関とその所在地を記す。和文の場合にはさらに上記各項目の英訳名を書く。

2.4 量記号、単位記号、用語、データ発表規準などはIUPAC、ICTAの勧告に従う。また、単位は国際単位系（SI）を用いることを原則とする。

2.5 和文の場合でも図や表の説明文は英語とする。本文中で引用する場合はFig. 1, Table 1などとする。

2.6 引用文献や注は該当する場所の右肩に^{1), 2), 3)}のように通し番号を入れ、本文末尾の文献欄に集録する。和文原稿の場合には、邦文誌の引用は邦語で、外国誌の引用はローマ字で書く。引用文献の省略法はISO 833に準拠する。

3. 論文

3.1 論文は印刷物として未発表のもので、熱測定（熱量測定、熱分析）および関連領域における独創的な研究で、新しい技術の開発、価値ある事実や結論を含むものと編集委員会が認めた場合に掲載する。

3.2 英文、和文両原稿とも必ず200語以内の英文要旨とその和訳を添えなければならない。要旨は本文を参照せずとも論文の内容を把握しうるように工夫する。

3.3 論文はたとえば次の形式で簡潔に書くことが望まれる。緒言・理論・実験・結果・考察・結論
このうちで不必要な項目は省く。

3.4 原稿の長さは原則として刷り上り6頁以内とする。和文原稿の場合は所定の原稿用紙約6枚で刷り上り1頁に相当する。但し、図（7cm×6cm）

は原稿用紙1枚に対応する。英文原稿の場合は、2.2に規定のタイプ原稿約3枚で刷り上り1頁に相当する。但し、図（7cm×6cm）は規定のタイプ用紙の1/2枚として計算する。

4. ノート

4.1 断片的な研究であっても新しい事実や価値あるデータなどを含むと編集委員会が認めた場合、ノートとして掲載される。

4.2 原稿の長さは原則として刷り上り2頁以内とし、英和文両原稿とも100語以内の英文要旨とその和訳を添える。ノートの形式も論文の場合に準ずるが、内容や長さを考慮して簡潔な構成となるよう工夫する。

5. 総説

5.1 総説は熱測定（熱量測定、熱分析）および関連領域における種々の課題や最近の進歩について参考文献などをつけて総括的に解説するもので、著者の観点が明確に出ているものが望まれる。

5.2 原稿の長さは刷り上り8頁以下になるように留意する。論文と同じく200語以内の英文要旨を添える。

6. 原稿の取扱い

6.1 投稿原稿はオリジナルにコピー1部を添えて、下記宛に送る。

東京都文京区湯島 1-5-31 第一金森ビル

日本熱測定学会「熱測定」編集委員会

なお別に著者校正用のコピーを著者のひかえにする。

6.2 原稿は本会に到着した日をもって受理日とする。

6.3 投稿原稿の採否は編集委員会が決定する。また、編集委員会は投稿原稿について著者に訂正を求めることができる。

6.4 査読の結果、書き直しのうえ再提出を求められた原稿は返送の日より2ヶ月以内に再提出しなければならない。これを越えたものについては投稿の意志がないものとして整理することがある。

7. 著者校正

著者校正を1回行う。この際、印刷上の誤り以外の字句の修正、あるいは原稿になかった字句の挿入は原則として認められない。

8. 別刷

別刷は投稿原稿1編あたり10部を贈呈する。10部以上を希望するものは著者校正を返送する際、所定の用紙により申込む。それ以降の申込みには応じられない。

^{*} 所定の原稿用紙は1部（50枚）100円に郵送料200円を添えて本会事務局に申し込まれたい。